



みらいっうしん

8月号

2021年8月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦芳子

☆感性を豊かにする体験☆

今年も梅雨時の豪雨による影響で被害を受けられた方々がたくさんいらっしゃいました。コロナウィルスはようやく落ち着きを見せ始めたかと思えたのもつかの間感染症の拡大は収まる兆しもなく、連日の報道から目を離せない状況です。これからムシムシする日も多く、感染症、熱中症、また食中毒にも気を付けなければなりません。引き続き汗をかいた後の始末や、水分補給、また手洗いの習慣づけを徹底していきたいと思います。

こども園では、お友達といっしょに楽しく過ごした1学期が終わり、保護者の皆様のご協力のお陰で、無事終業式を迎えられたことを心から感謝いたします。1号認定のお子さんは、夏休みに入りますが、引き続き健康には十分留意され、この夏にしかできない体験やお手伝いなどを取り入れて、有意義な日々を過ごして下さい。また、2、3号認定のお子さんにおいても、なるべくお休みの時は、親子の絆を深めるため「家族水入らず」の時間をゆったりと過ごしていただきたいと思います。

さて、7月は、大きな行事が2つありました。その1つは、2年ぶりの「七夕コンサート」です。今回も、私が3歳から5歳まで担任をした教え子が演奏に来てくれました。バイオリン、クラリネット、トロンボーン、ピアノの演奏者が集まり、乳児さん、ほし組とそら組、にじ組の2つのグループに分かれて、演奏を聞きました。ミッキーマウスマーチから夏に因んだ曲、トトロや星に願いをなど、美しい音色にうっとりしたり、心が弾んだり、そら組とにじ組の回では、なんと、あの鬼滅の刃シリーズの「炭次郎の歌、炎、紅蓮華」のメロディーが流れ、子ども達は夢の世界に導かれ、手をたたいて大喜びでした。しかし一番盛り上がったのは、こども園の園歌とパプリカで、子ども達の中からは、「ブラボー」「最高!」「かっこいい」の声が次々と上がり、曲に合わせて歌ったり、鈴を鳴らしたりして、大フィーバー、どの子どもも全身で楽しさを表現していました。今回は、クイズや指揮者体験もあり、代表の子どものテンポに合わせて演奏者が楽器を奏でる場面は必見でした。教え子からは、「みらいこども園の子ども達は、皆感性豊かですね。演奏していてとても楽しかったです。また機会があったら呼んでください。そしてこの中から音楽家が生れてくれると嬉しいです」と反対にお礼の言葉を頂きました。幼少期はおとなしくて自分を表現することが苦手だった教え子が、自分の意志で歩み、音楽家としてこうして活躍していることに改めて胸が熱くなりました。子ども達も、好きなことを見つけ遅く自分の道を歩んで行ってほしいと思いました。2つ目の行事「なつまつり」は、梅雨空の合間にかかわらず天候にも恵まれ、可愛らしい甚平や浴衣姿のそら組さんとにじ組さんが、お祭りを楽しみました。事前に、ちょうちん作りや太鼓を叩いたり盆踊りをしたりして気分はすでにお祭り気分でしたが、当日は、何のゲームがあるんだろうとワクワクしている様子でした。魚釣り、輪投げ、ゲートボール、バスケットボール、太鼓コーナーに思い思いに参加しました。また、盆踊りには、お家の方も駆けつけていただき、最後まで活気に満ち溢れていました。今回参加できなかった乳児さんとほし組さんにも次の週にお祭りごっこを行い、全員でお祭りの雰囲気を楽しみました。このように普段の保育から行事に繋がり、楽しかったことを振りかえりながら、また、遊びが膨らむことは、子ども達の感性や意欲がより豊かになることと思います。多様な体験から豊かな感性を育み、子どものこころの動きに共感する重要性を認識し、今後も職員一同、子ども達が、心身ともに成長していくようこの夏も自己研鑽し、「教育・保育」を学んでいきたいと思います。



なつまつりごっこ

